

新たな日本ASEAN関係の構築を目指して

世界経済におけるアジアのプレゼンスが高まっている。中でも、アジアのハブとして存在感が増している東南アジア諸国連合(ASEAN)は、八月八日に設立四十周年を迎えた。このことを記念したシンポジウム「グローバル化時代の日本ASEAN経済関係」が、主催者として日本アセアンセンター、日本経済新聞社が中心となり開催され、日本とASEAN加盟十カ国から多数の有識者が参加した。日本、ASEAN双方の参加者から、今後の新たな関係の構築に向けた活発な議論が展開された。



経済産業大臣 甘利 明氏

基調講演

ASEAN関係は近年ますます深化している。日本企業はASEAN域内での貿易を急増させており、活発な直接投資を通じて、高度な生産ネットワークを形成している。日本政府はASEAN諸国との貿易自由化や投資ルールの整備などを早期に取り組み、実体面を進んでいる。経済関係を制度面でも整備することが重要だと考え、交渉を進める上で日本政府が戦略的ポイントが三つある。一点目は、単なる自由貿易協定(FTA)ではなく、ASEAN各国と幅広い分野での制度整備と協力を目指す経済連携協定(EPA)を推進する点だ。これにより、多様な発展段階にあるアジア各国のニーズにきめ細かく対応し、より緊密な二国間

東アジアの経済統合に向け 実体面で進む関係を制度面に

経済関係を構築することが可能になる。二点目は、ASEAN全体との包括的経済連携(AJCEP)協定の締結を目指している点だ。単純な二国間の貿易・投資関係を越え、高度な国際分業体制を確立している日系企業や、中国・韓国企業との競争で劣位に置かれたくないよう、十一月の日本ASEAN首脳会合までの受給を指し交わしている(注)。 三点目は、アジア資源国とのEPAに、エネルギーに関する独立した章を盛り込んでからなる東アジア包括的経済



シンガポール外務担当 上級国務大臣 ザイナル・アビディン・ラシド氏

基調講演

「福田ドクトリン」を発表し、ASEAN設立からの四十年間は、私たちに非常に大きな変化がもたらされた。目標とした経済発展を経験し、加盟国も五カ国から十カ国に増加した一方で、自然災害や人為的災害による打撃を受けた。この間、日本はASEANの親友として多くの援助や投資を行い、ASEAN諸国の発展に貢献してきた。 一九七七年に当時の福田首相が、日本とASEANとの対等なパートナーシップ、心のふれあいをうたったうまでもない。また二〇〇五

さらなるASEAN日本関係 進展するASEAN日本関係 さらに高次元への取り組み期待

「福田ドクトリン」を発表し、ASEAN設立からの四十年間は、私たちに非常に大きな変化がもたらされた。目標とした経済発展を経験し、加盟国も五カ国から十カ国に増加した一方で、自然災害や人為的災害による打撃を受けた。この間、日本はASEANの親友として多くの援助や投資を行い、ASEAN諸国の発展に貢献してきた。 一九七七年に当時の福田首相が、日本とASEANとの対等なパートナーシップ、心のふれあいをうたったうまでもない。また二〇〇五

パネルディスカッション

- 「パネリスト」 ASEAN 駐日フィリピン特命全權大使 ドミンゴ・L・シアソン Jr.氏 ナロンチャイ・アクラサニー氏 ジスマン・シマンジュンタク氏 日本 伊藤忠商事会長 丹羽 宇一郎氏 早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科教授 浦田 秀次郎氏

高まるプレゼンス

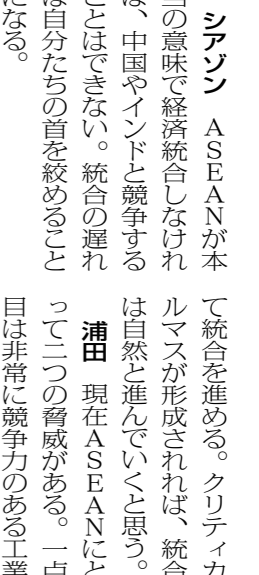
司会 直近の十年間で、日本とASEANを取り巻く環境の一番の変化は、中国とインドの台頭だろう。それまでの世界の成長センターはASEANであり、一九九三年には世界銀行が「東アジアの奇跡」というレポートを出したほどだった。 アジア通貨危機後中国が台頭し、日本からの投資も加速している。一方で、人件費の高騰や知的財産権の侵害、電力不足などのリスクも認識されつつある。現在の状況をどうのようにとらえるべきか。

連携強化に向けて

司会 日本とASEANの連携強化に向けた課題は、シマン。日本は環境問題、原子力の平和利用、水資源管理、アジアの高齢化問題という四つの分野で貢献している。 環境問題では、来年の主要国首脳会議のホスト国である日本が、二〇一三年からの温暖化問題の交渉に米国、中国、インド、ブラジルが参加するよう促してきた。また原子力の平和利用に関して、世界が日本から学ぶべきことは多い。原子力発電や原子炉の耐震技術、放射性廃棄物管理など、日本が持つ経験をアジア全体で共有することが期待されている。 多くの発展途上国は飲料水が不足しているにもかかわらず、公害や管理状態が悪い。貴重水資源を無駄にしている。日本は高度な水資源管理と水処理技術を持っていて



丹羽氏



浦田氏

中国・インドと良好な関係重要 世界の中でバランス良い発展を

加している。タイの輸出額は年平均一五%程度増えているが、中国向けは三割の伸びだ。景気拡大に大きな影響を与えている。 日中関係を懸念している。ASEANにとって日本も中国も重要なパートナーだ。歴史認識問題をクリアすることが、両国の関係性が発展すると思う。 丹羽 中国抜きに

日本が貢献すべき3テーマ ASEANと共に進む姿勢示す

浦田氏 日本市場の開放とASEANでの人材育成も必要だ。EPA交渉の障害になっている農産物市場を開放することだ。 丹羽 関係強化に向けて、ASEANが貢献すべきテーマが三つある。一点目は法律や会計、特許制度などのソフト面の整備だ。日本企業が中国やASEAN諸国に進出する際、ASEANからの食料品輸入が促進される。またASEAN諸国の日系企業で、現地人材の雇用や教育・訓練を進めることで、日本はASEANと共に歩むという姿勢を示すことができる。この姿勢を示すことが、関係強化を図る上で一番重要だろう。

環境など4分野での貢献に期待 資本と人材移動に議論必要 インフラ整備で資本の活用

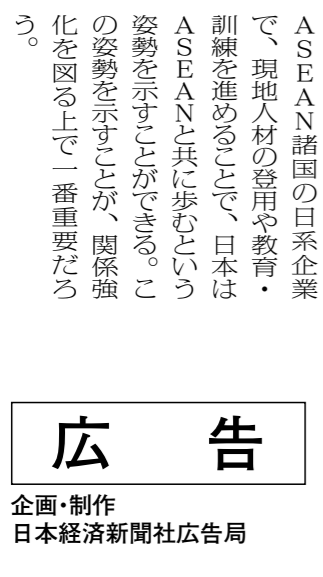
シマン 資本と人材の移動は、ASEANの発展にとって重要な課題だ。ASEANは環境問題、原子力の平和利用、水資源管理、アジアの高齢化問題という四つの分野で貢献している。 環境問題では、来年の主要国首脳会議のホスト国である日本が、二〇一三年からの温暖化問題の交渉に米国、中国、インド、ブラジルが参加するよう促してきた。また原子力の平和利用に関して、世界が日本から学ぶべきことは多い。原子力発電や原子炉の耐震技術、放射性廃棄物管理など、日本が持つ経験をアジア全体で共有することが期待されている。 多くの発展途上国は飲料水が不足しているにもかかわらず、公害や管理状態が悪い。貴重水資源を無駄にしている。日本は高度な水資源管理と水処理技術を持っていて



シアソン氏



ナロンチャイ氏



ジスマン氏

企画・制作 日本経済新聞社広告局